

群 教 セ	G11 - 03
	平25.251集
	小・学級活動

話合いに自信をもって参加し、 自己有用感を高められる学級活動

— 「グループ討議」から「全体討議」へと段階を踏んだ
学習形態を取り入れて—

特別研修員 廣兼 雅子

I 主題設定の理由

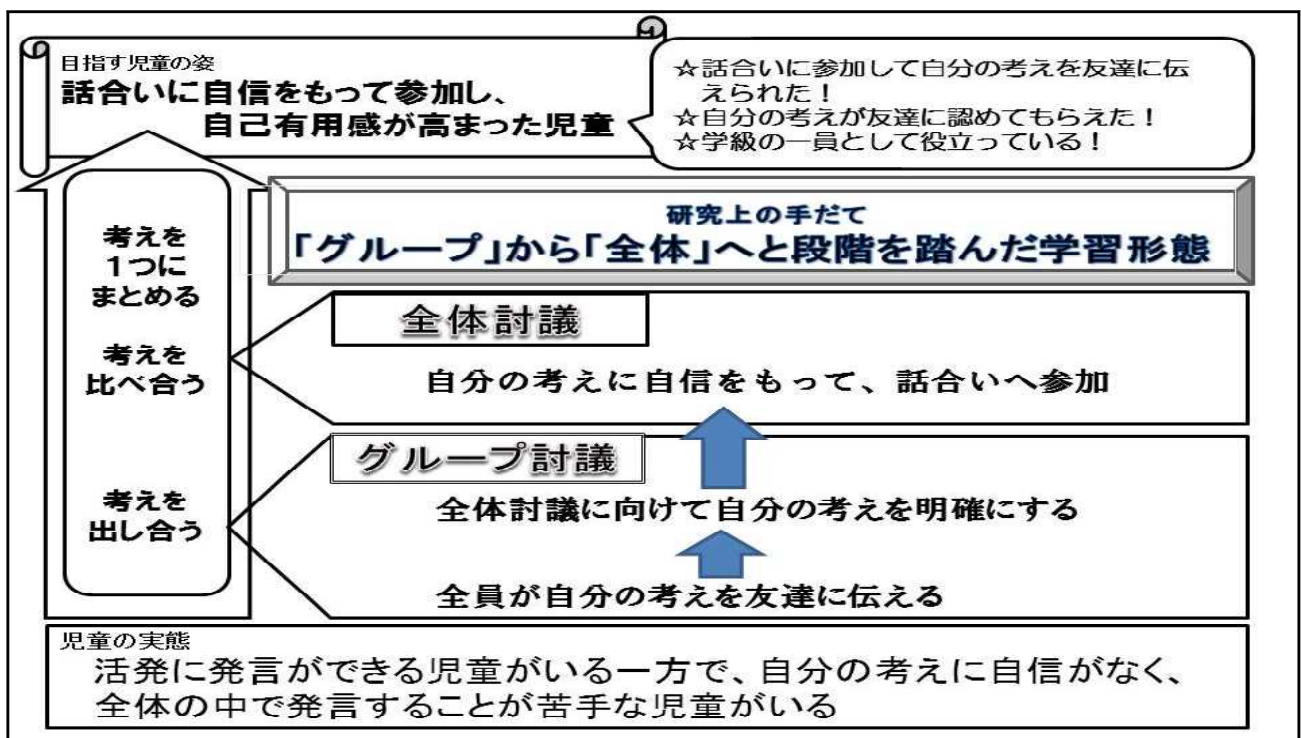
本学級の児童は、互いに協力して自分たちでよい学級をつくりたいという思いをもっている。しかし、自分の意見がよい学級づくりに生かされている、役立っているという思いを、学級活動の話合いの中で十分もてていない児童がいる。それは、自分の考えに自信がなく、集団の中で発言することが苦手なこと、その結果、友達から認められる場面が少ないことが要因であると思われる。

考えに自信をもって話合いに参加できるようになれば、他の児童から認められる機会も増え、その結果、児童一人一人の自己有用感を高められるのではないかと考えた。そこで、学級活動(1)の話合いにおいて、自分の考えを明確にし、互いに認め合えるよう学習形態を工夫していくこととした。

以上のことから「はばたく群馬の指導プラン」に示された生きる力の3要素の一つ「豊かな心」の課題「大切に作る心(学校生活をよりよくするため諸活動に取り組むことができる)」に絞り、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

学級活動(1)の話合いにおいて、児童一人一人が自信をもって参加し、「自分の考えが友達に認められ、学級の一員として役立っている」という自己有用感を高めるための手だてとして、「グループ討議」から「全体討議」へと段階を踏んだ学習形態を位置付け、次の通り実践を試みた。

実践1 「『帰りの会』を充実させよう」における研究上の手だて

- 話し合いの前半に「グループ討議」を位置付ける。「グループ討議」は事前に用意した考えを全員が友達に伝え合う場とし、「全体討議」は出された考えを基に集団決定する場とする。
- 自分の考えを明確にして「全体討議」に臨めるように、黒板に書かれた自分の考えと同じ意見にネームプレートを貼り、自分の考えを示す場を設ける。

「グループ討議」では、全員の児童が事前にノートに書いてきた自分の考えと理由を発表でき、質疑応答を行えた。このことにより考えを友達に伝え、聞く中で整理・修正され、自分の考えを明確にして「全体討議」に臨むことができた。各班では考えを一つに絞らず、話し合いの視点に合った考えをすべて全体の場に出すようにしたことで、発言が苦手な児童の考えも「全体討議」の対象とすることができた。また、「全体討議」の前に黒板にネームプレートで自分の考えを示したことで、同じ意見に同意する発言をしたり、友達の発言に頷きながら聞いたり、進んで「全体討議」に参加できた。

「全体討議」では、活発に意見が出され、皆が納得して集団決定できた。しかし、「グループ討議」から出された友達の意見に対して、否定する形で議論が進む場面があり、一人一人の児童の自己有用感を高める話し合いとしては課題が残った。そこで、実践2では次のとおりに手だてを改善した。

実践2 「卒業文集のクラスページをつくろう」における研究上の手だて

- 「グループ討議」は、「全体討議」に向けて自分の考えを明確にする場として意識付ける。
- 「全体討議」では、友達の考えをすべて否定するのではなく、考えの中で納得できる部分は認め、どの部分を修正するとよいか、具体的に発言できるとよいことを確認する。

「グループ討議」を行ったことで、どの児童も「全体討議」に向けて自分の考えを明確にできていた。「全体討議」では、実践1の反省を踏まえて、話し合いの視点に沿って友達の考えのよさも認めつつ、自分の考えも主張する流れとなり、女子の発言も前回より活発だった。司会の意図的指名により、ふだんは発言に消極的な女子児童の発言をきっかけに、折り合いを付けて集団決定ができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 自己有用感が低かった児童が、話し合いを通して学級の一員としてよりよい集団作りに貢献できたという実感を持ち、その後の学級の活動に協力して取り組むようになった。その要因としては、「グループ討議」を設定したことで、友達の考えを聞いてから、自分の考えを明確にでき、自信をもって「全体討議」に臨めたこと、その結果、全体の話し合いの中で自分の考えが言え、友達に受け入れてもらえたことが挙げられる。

2 課題

- 本実践では、「グループ討議」は意見を出し合い、自分の考えを明確にする場と考えたが、グループ間で話し合いの程度に差があった。中には、「全体討議」で話し合う必要感が薄れたグループも見られた。「グループ討議」で何を目的にどの程度まで討議するのかを明確に示す必要がある。

3 提言

- 児童一人一人が話し合いに自信をもって参加し、自己有用感を高めるためには、「グループ討議」を取り入れることは有効である。ただし、「全体討議」へのつながりを意識して、以下のように「グループ討議」の目的や内容を明確にすることが重要だと考える。
 - ・全員が自分の考えとその理由を発表するとともに、友達の意見を聞いて整理・修正し、「全体討議」に向けて自分の考えを明確にする場とする。
 - ・「話し合いの視点」に沿って質疑応答を行い、視点に合った内容はすべてグループの考えとすることで、発言に消極的な児童の意見も吸い上げて「全体討議」に出せるようにする。

IV 実践及び改善の実際

実践 1

1 議題名 「『帰りの会』を充実させよう」(第6学年・2学期)

2 本議題及び本時について

本学級の帰りの会は、教師の話だけで児童の活動場面がほとんどなく、学級会で話し合いたいことのアンケートの中では8割の児童が「帰りの会の充実」を挙げており、本学級にとって取り上げる必要性の高い議題であった。短時間で繰り返し実践ができ、学級全員で活動ができる「帰りの会」を児童主体の活動の場ととらえ、その内容を話し合っただけで決定することで自己有用感をもたせたいと考えた。そこで、段階を踏んだ学習形態を取り入れた授業を構想し、以下のとおり実践を試みた。

3 授業の実際

「帰りの会」の内容については、事前に他のクラスの友達や家族、教師にインタビューをして自分の考えをもって本時に臨んだ。

まず、計画委員(司会2名、記録2名)から、議題と提案理由、話し合いのめあてが確認された。その後、話し合いに入る前に以下の2点を話し合いの視点として提示した後、グループ討議に入った。

<話し合いの視点>

- 短時間(5分以内)で終わる短い活動を考えること
- 一日が気持ちよく終われるような活動を考えること

(1) 「グループ討議」

生活班4、5名で構成した。これまでの学級活動においても、輪番制でグループの司会と出された考えを全体に発表する報告係を決めて役割をもたせてきており、本時も同様に輪番制とした。「グループ討議」は事前に用意した考えを全員が友達に伝え合う場で、視点に合った考えはすべて全体に出す約束とした。各自が自分の考えと理由を発表し、友達の考えに対して質疑応答を行った。ふだん、あまり発言の多い方ではない抽出児童S2だが、自分の考え(みんなで楽しめるゲーム)を出した後、友達の考えに対して疑問点を積極的に質問していた。



図1 グループ討議の様子

「グループ討議」での活動の様子

- S1: ぼくは、6年で習った勉強クイズを一人ずつ順番にするのがいいと思う。分かったら出題者に小声で答えを言い、当たった人から帰る。これを毎日すれば成績がアップするよ。
- S2: 私も勉強したところの復習とか考えたけれど、その方法だと早く当たって帰れる人はいいいけれど、当たらないでずっと残った人は気持ちよくないよ。
- S1: 確かにそうだけど、面白いと思うんだけどなあ。
- S2: でも、やっぱり残った人は楽しくないよ。みんながいい気持ちになれるものもいいよ。それだったらみんなが楽しめて信頼が深まるようなゲームをするのがいいと思う。

10分間の「グループ討議」の後、各班(全7班)の報告係が全体に向けて自分たちの班で出された考えを発表した。友達の考えを聞いて自分の考えを決定し、「全体討議」の前に黒板に出された意見にネームプレートで示し、自分の立場を明確にできるようにした。また、「全体討議」の前に教師から以下の2点について示した。

- ・ネームプレートが多い意見が決定意見ではないこと
 - ・話し合いの途中で友達の発表を聞いて、考えが変わってもよいこと(途中プレートは移動しない)
- 「グループ討議」から「全体討議」へ、次のような意見が出された。

- ・ 友達のよいところ探し ・ 次の日の日直の紹介 ・ 歌を歌う ・ ジャンケン
- ・ 曜日ごとに内容を変える ・ 一日の楽しかったこと ・ 友達の誕生日祝い ・ ゲーム
- ・ 6年生で習ったことクイズ

計画委員との事前の打合せの中で、「日直が出席番号順で男女交互なので順番が分かりにくく、帰りの会で次の日の日直を紹介してほしい」という意見が出された。そのため、「全体討議」の前に計画委員から「次の日の日直の紹介は実施したい」との提案が行われ、了承された。そこで、それ以外の考えの中から一つ活動を決めることとなった。

(2) 「全体討議」

「全体討議」では、「一日が気持ちよく終われる活動」の視点を中心に意見が出された。一日が気持ちよく終われる活動として、「じゃんけんゲーム」と「友達のよいところ探し」に絞られたところで、教師が次のように投げかけた。

「全体討議」での活動の様子

T：話し合いの視点にある「一日が気持ちよく終われる」ってどういうことかな。

S1：楽しかった、今日一日がよかった（とみんなが感じること）。

T：6年生 200日のうち今日がちょうど 100日目です。卒業まで残り半分、ぜひみんなで協力して「一日がよかった」と思えるものを決めてほしいです。

S2：私は「友達のよいところ探し」がいいと思います。よいところを言ってもらえば一日の最後が気持ちよく終われると思うからです。

T：S2さん、学級会カードに書いてある理由も言ってもらえますか。

S2：みんなとは中学に行っても一緒だし、小学校最後だから仲よく気持ちよくクラスを終わりたいと思うからです。

司：S2さんから「友達のよいところ探し」という意見が出ましたが、どうですか。

S3：S2さんの言ったように「友達のよいところ探し」は一日が気持ちよく終われると思います。

S2の発言がきっかけとなり、「友達のよいところ探し」に対する賛成意見が発表され、学級全体の考えに決定した。終末に自己評価活動を行ったところ、ふだん、S2は「△」が多く自己評価が低い、本実践では、すべての項目で「◎」とし、「今回は自分の意見をちゃんとみんなに伝えられたと思う」と書いていた。また、他の児童の振り返りにも「いつもは、あまり意見を言わないS2さんが意見を言ってくれて嬉しい」「S2さんが最後に言ってくれてよかった」という内容が複数あり、周りの友達からも肯定的に評価されていた。

4 考察

学級内での自己有用感の低かったS2が、本時の自己評価がよくなった。さらに、事後の活動でも「友達のよいところ探し」の発表に頷いたり、自分からも発表したりするなど、と協力的に活動する様子が見られた。それは、集団の中で意見を言うのが苦手なS2が、意見集約に向けての重要なポイントで発言でき、その意見が友達に受け入れられたことで、学級内での自己有用感が高まったからだと考える。S2が集団の中で発言ができるようになった要因としては、「グループ討議」は少人数なため、活発に発言する友達に対しても自分の考えを言えたこと、「一日が気持ちよく」という視点に沿って友達と意見交換をすることで、考えが整理され、自信をもって「全体討議」に臨めたことが大きかったと考える。また、これまで一部の活発に発言ができる児童同士のやりとりで進んでいた「全体討議」が、本時は、発言の苦手な児童が発表したり、自分と同じ考えの児童の発言に頷きや呟きがあったりと一人一人が議題に対して真剣に考え、話し合いに参加する様子が見られた。

一方で「全体討議」では、男子児童を中心に活発に意見交換がされたが、一部に、友達の意見を否定して自分の意見のよさを主張する討議が目立った。「グループ討議」で自分の意見を言えた児童も「全体討議」では発言したいけれどできなかつた、という感想があった。発言が苦手な児童にとって、全体の場で自分の考えがすぐ否定されることに不安を感じるからであり、改善の必要があった。

実践2

1 議題名 「卒業文集のクラスページをつくろう」(第6学年・2学期)

2 本議題及び本時について

本校の卒業文集は個人の作文と6ページのクラスページから構成されている。どのようなページにするかは各学級に任せられており、学級の個性を出すことができる。また、完成の1月末までには約1か月の期間があり、みんなで協力して計画的に進めていこうという意識をもって活動ができる。全員の思い出に残るような文集作りを計画し、協力して作り上げることにより、皆で一つのことに取り組む楽しさを味わうことができる議題である。本時は、「卒業文集のクラスページ」について話し合う活動を通して、クラス全員がかかわれて、大人になった時に読んで楽しめる内容を考えることをねらいとしている。実践1を踏まえ、児童が自分の考えに自信をもって話し合いに参加し、学級での自己有用感を高められるように、「グループ討議」の目的を明確にし、「全体討議」での発言について留意点を確認するという2点を改善し、実践を試みた。

3 授業の実際

話し合いに入る前に以下の2点を話し合いの視点として提示した後、グループ討議に入った。

<話し合いの視点>

- クラス全員がかかわれる内容
- 大人になった時に読んで楽しめる内容

また、今回決めるのは、見開き1ページの内容であり、決める内容の他に、「プロフィール欄」と「寄せ書き」のページを作ることがすでに確認されている。

(1) 「グループ討議」

「グループ討議」では、全員が友達に自分の考えを伝え、友達の考えに対して質疑応答を行った。全体での発言が苦手な女子S4も自分の考えを友達に伝え、質問にも答えていた。

「グループ討議」での活動の様子

- S4: 私は、「未来へのメッセージ」を考えました。
S5: 「未来へのメッセージ」って、クラスのみんなに対して? 寄せ書きと似ていないかな。
S4: いや、そうじゃなくて、大人になった自分へのメッセージです。大人になって読んだ時に6年生だった昔の自分からメッセージをもらうのってうれしいかなって。
S5: 確かにうれしいかもしれない。過去の自分からの励ましになるよね。

「グループ討議」で話し合われ、全体に出された意見は次のとおりだった。

- ・クラスのなんでもランキング
- ・1年間で印象に残ったこと
- ・給食食べるの早い人
- ・自分の未来へのメッセージ
- ・クラスの流行語大賞
- ・好きな本
- ・クラスの今年の漢字
- ・一人一人のクラスNO1
- ・友達のよいところ探し

報告係から意見が出された後、黒板に書き出された上記の意見の中から、考えが同じものに各自でネームプレートを貼るように投げ掛け、自分の立場を明確にさせた。

(2) 「全体討議」

実践1では、友達の考えを否定して議論を進める場面が多く見られ、発言しにくい児童がいた。また、活発な男子が中心となり、女子の発言が少なかった。これらの反省を踏まえて「全体討議」に入る前に以下のことについて確認をした。

- ・(全体へ) 友達の考えのよさを認めた上で、問題点を指摘するなど前向きな話し合いをする。
- ・(司会へ) 活発な意見交換ができるよう、ネームプレートを活用して意図的指名を行う。

始めは、活発な男子の発言が続き、「クラスの何でもランキング」などの意見が出された。途中で、司会が黒板に貼られたネームプレートを参考に指名し、その他の意見として「未来へのメッセージ」を推す意見が出された。その後は「クラスの流行語大賞」「クラスの今年の漢字」のよさを巡って討議が続いた。

「全体討議」での活動の様子

- S6：「クラスの流行語大賞」がいいと思います。大人になって読んだ時、こんな言葉が流行っていたと分かると思います。
- S2：「クラスの今年の漢字」がいいと思います。漢字だったら大人になってもその時の雰囲気を出せると思います。
- S6：「漢字」もいいけれど、「流行語大賞」でも、その時の雰囲気を思い出せるのではないかな。分かりやすいし、印象に残ると思う。
- 司：S7さん、何か意見がありますか。
- S7：話を聞いていて、両方ともよいところがあるのだから二つとも「何でもランキング」の項目に入れるのはどうですか。
(「おおっ」と声があがる)
- 司：S7さんの意見についてどうですか。
- 全：納得です。
- S5：「未来へのメッセージ」も、大人になった自分を後押しできるよい意見だと思うので、入れてほしいと思います。
(計画委員が短時間で相談し、これまでの考えをまとめる)
- 司：S7さんの意見のように「クラスの流行語大賞」と「クラスの今年の漢字」は「何でもランキング」に入れます。そして、「未来へのメッセージ」は自分へのメッセージなので「プロフィール」に項目を作って入れたらどうですか。
- S8：なるほどね、そういうふうにしたら、どれもできるね。(複数の児童から同様のつぶやき)

女子児童S7の意見をきっかけに、司会が折衷案を提案し、全体が納得する形で決定した。本実践では、実践1の課題であった女子児童の発言も見られた。また、事前の打合せのとおり司会がいろいろな児童に意見を求めている。実践1の抽出児童S2は、今回も積極的に発言した。

振り返りではS7やS2の発言について肯定的に評価する児童が多く、「S7さんの発言に納得しました。今日の話合いはしっくりきた」「後で読んでも楽しめるような内容が決まってよかったです」といった意見が出された。



図2 全体討議の様子

4 考察

「未来へのメッセージ」を考えたS4は発言が苦手だが「グループ討議」で自分の考えを発言し、友達的支持を得ることができた。全体での発言はなかったものの、S4の考えを評価したS5が発言して集団決定に生かされた。このように全員が友達に考えを伝える「グループ討議」の設定によりおとなしいS4の

考えが学級全体の決定事項の一つとなった。女子児童のS2やS7が「全体討議」の場で有効な発言ができたのも、「グループ討議」で自分の考えを明確し、自信をもって「全体討議」に臨めたからであると考えられる。また、4月の学級会と比べ、今回の方が「話し合いでクラスのことに協力しようという気持ちをもてたか」という自己評価の項目で「◎」の人数が多い(表1)。4月の自己評価で「○」だったS2は「◎」へ、「△」だったS4は「○」となった。友達に自分の考えが受け入れられる経験を積み、学級での自己有用感が高まったためと考えられる。課題としては、「グループ討議」でどこまで話し合うのが曖昧だったことである。グループ間でその内容に差がみられ、改善に向け、今後検討が必要である。

表1 評価項目の人数変化

	4月15日 第1回	12月19日 第10回
協力しようという 気持ちをもてたか		
◎ (よくできた)	9名	26名
○ (できた)	17名	3名
△ (もう少し)	3名	0名